



様式第 2 号（第 7 条関係）

令和 6 年 7 月 12 日

意見交換会報告書

開催日時	令和 6 年 7 月 2 日(火) 午前 10 時 00 分～午前 11 時 30 分
開催場所	豊明市役所新館 4 階 第 1 委員会室
出席議員	座 長 総務委員会委員長 中堀 りゅういち 記 録 者 林 ゆきひろ 出席議員 毛受明宏 清水義昭 岡島ゆみこ 青木けんじ 鈴木智和 浅井たかお こんどうのぶお いとうひろし 服部龍一 武谷としお 郷右近修 鵜飼貞雄 三浦桂司 月岡修一 一色美智子 堀内ちほ ふじえ真理子
地域・団体名	豊明市自主防災組織連合会
参加人員	豊明市議会議員 19 人 自主防災組織連合会理事 23 人 防災防犯対策課 3 人 議会事務局 3 人 計 48 人
テーマ	災害時及び平時における市、市議会、地域の役割について
主な意見・提言	質問：指定避難所以外の避難施設、物資配布、状況把握等の 対策と周知について 回答：地域の避難所が開設されるほか、在宅避難者も多く発 生することを想定している。平時から各避難所へ物資 の配布方法等を考え、災害時には避難者名簿のとりま とめ等、市災害対策本部へ情報提供を行う。 質問：避難所の開錠方法について 回答：避難所の開錠方法について、ダイヤル式のキーボック スを使用しているところもある。 落合区は区長はじめ区の役員、町内会長、防災担当が鍵 を持っている。区の防災マニュアルを毎年更新して、誰

が鍵を持っているかをわかるようにしてある。

質問：災害関連死者数が多く発生している。在宅避難者にも多くみられる。避難所以外の避難者の把握をどうするのか。

回答：今年度から、市で個別避難計画を順次作成していく予定。
要介護者など、初期モデルとして20人ほどを作り始め、最終的に800人ほどの対象者リストを作っていく予定。

質問：重度の障がい者の電源確保はどうするのか。要支援者の一般避難所から福祉避難所への移動を考えると、直接避難ができるようにした方が有効ではないか。

回答：一般避難所には精密機器に使用できるカセットガス式の発電機を配備しているが電源さえあれば安全に過ごせるというわけではない。そのような個々の対応をするためにも個別避難計画が必要となる。

質問：飲料水の確保について。足りなくはないか。

回答：今年度、小・中学校及びカラットに設置されている受水槽に蛇口を取り付ける工事が行われる。そのことにより直接タンクから給水できるようになる。
市民全員の1日1人3ℓ計算で約7日間を賄える体制になる。

質問：町内会未加入者の名簿がないため、安否確認するための把握ができない。

回答：実際に避難されて来たときに名簿を作成して把握していく方法でしか対応は難しい。
近隣の方とのつながりが重要。

質問：大地震発生後の道路は大丈夫なのか。
支援物資は届くのか。

	回答：国道県道は災害時に備えて強度を持って作られている。 また、医療系の緊急避難経路も確保されている。 質問：下水が使えるかを確認する方法 回答：大規模災害時、すぐには使用可能かの判断は難しい。使用可能という確認が取れるまでは使用しないでほしい。
その他 特記事項	